

# 2009 年度中国語初級教育における実践報告

中山 文<sup>\*</sup>，山本 透江<sup>\*\*</sup>，李 玲<sup>\*\*</sup>

(2010 年 1 月 12 日受理)

## はじめに

中山 文

2008 年度は 2006 年から始まった共通教育機構による共通教育科目が立ち上がって 3 年目にあたり、完成年度の年である。外国語分野で立てた全ての講義科目が立ち上がった。中国語に関しては、以下のクラスである。

初級用（第 1、2 セメスター）として、初級中国語 I ab・II ab、入門会話 I・II

中級用（第 3、4 セメスター）として、中級中国語 I ab・II ab、基礎会話 I・II

上級用（第 5、6 セメスター）として、実用中国語 I・II、中国語リーディング I・II、中国語会話 I・II

I は前期、II は後期科目を指す。初級中国語と中級中国語はそれぞれ 1 週間に a と b、2 コマの授業をペアで申し込む。ただ、成績は a と b が別々に提出される。それ以外の授業は週に 1 コマである。3 年前に希望を持って立ち上げたクラスの運営は、はたしてうまく機能しているのか。今年はその検証が必要な年だといえるだろう。

また今年は専門科目の持ちコマの関係上、唯一の専任教員である筆者が中国語を 1 コマも担当できない初めての年だった。上記の授業に旧カリキュラムや再履修クラスを含めると、現在中国語関係は全部で 130 コマの講義が設定されている。この 130 コマ全てが 30 名の非常勤講師に委ねられた。そしてこの状況は、来年度も変化する見通しが無い。

人文学部が L 字型教育を受け持っていた教養総合コース以来、中国語では全学統一テキスト、統一試験、統一成績基準を守ってきた。担当教員による不公平が生じないように配慮しつつ、中国語教育の一定レベルを維持するには、このシステムが必要だと考えたからである。専任教員としての仕事は、現場の不満や不具合をすばやく解消し、非常勤講師に気持ちよく授業をしてもらうことだと認識している。そのために、中国語教育の現場から離れることに、筆者自身が大きな不安を感じていた。

2008 年秋に今年度の初級、中級クラスのまとめ役を決定した。それぞれの担当者には、こちらの状況を正直に話し、他の先生方と筆者とのパイプ役になっていただくようお願いした。何の報酬もなく、責任の重いこの役割を、皆さん快く引き受けて下さり、とてもありがたかった。

---

\* 神戸学院大学人文学部教授

\*\* 神戸学院大学人文学部非常勤講師

ここに担当者による、各担当科目の実践報告を残したい。

## I . 「初級中国語『みんなの中国語 第一歩』浸透度 － 2009 年度前期末試験結果分析－」

山本 透江

### 1. はじめに

2007 年度前期に始まり、本学での『みんなの中国語 第一歩』の使用は 3 年目となる。本稿では、過去 2 年間のデータに基づき、今年度前期試験の成績や解答状況との比較を中心に分析する。

この 3 年間のデータを以下に挙げておく：

2009 年度	受験人数 1101	満点 60	最高点 59	最低点 16	平均 42.4	標準偏差 6.18	分散 38.2
2008 年度	受験人数 1215	満点 60	最高点 60	最低点 14	平均 45.3	標準偏差 7.66	分散 58.6
2007 年度	受験人数 1366	満点 60	最高点 58	最低点 17	平均 41.3	標準偏差 7.59	分散 58.6

2009 年度の平均点は 42.4 点、9 割以上の得点者は 16 人 (0.01%)、8 割以上では 207 人 (18.8%) と前年度 (9 割以上 : 9.79% ; 8 割以上 : 37.5%) 結果を大きく割りこんだ。また標準偏差は 2008 年比 1.48 ポイント低下、つまり解答率の偏りが各所に見られた。平均点はさほど変化していない。

### 2. 試験結果分析

2007 年度以来、点数が固定 (60 点満点) されており、出題形式の異同による調整が試みられている。今回は 2007 年度 9 種 50 問 → 2008 年度 7 種 40 問 → 2009 年度 8 種 45 問とした。以下は 2009 年度の出題形式と、その正答率である。

2009 年度	正答率
I .[01]-[05] (各 1 点 × 5 問) 簡体字正誤問題	67.0%
II .[06]-[10] (各 1 点 × 5 問) 中国語文の日本語訳	72.8%
III .[11]-[15] (各 2 点 × 5 問) 日本語文の中国語訳	61.2%
IV .[16]-[25] (各 2 点 × 10 問) 中国語文の語順整序	80.1%
V .[26]-[30] (各 1 点 × 5 問) 中国語文の空欄補充	77.1%
VI .[31]-[35] (各 1 点 × 5 問) 語句の中国語訳	69.1%
VII .[36]-[40] (各 1 点 × 5 問) 一音節語の聞き取り (ヒアリング)	48.1%
VIII .[41]-[45] (各 1 点 × 5 問) 中国語による質疑応答 (ヒアリング)	39.8%

2009年度と2008年度 同一（類似）問題種との比較

	2009年度	2008年度	2009年度対比
簡体字正誤問題	67.0%	81.2%	82.5%
中国語文の日本語訳	72.8%	57.1%	127.5%
中国語文の語順整序	88.1%	79.1%	101.3%
中国語文の空欄補充	77.1%	79.8%	96.6%

①簡体字正誤問題

正答率は2007年度38.2%→2008年度81.2%→2009年度67.0%。当項目での誤答第2位が平均29.3%（最高は[04]請、42.5%）と、簡体字認識の曖昧さが目立つ。今回も「しょくへん」「かねへん」「ごんべん」「しんによう」「さんずい」および間違えやすい部首を問うた。また昨年度と同出問[01]経については、2008年度65.6%→2009年度71.8%と、一応の成果が見られる。巻末の「なぞり書き」や、練習問題等の提出物を担当者が細かくチェックする必要があると感じる。

②中国語文の日本語訳

正答率は72.8%。この教科書はすべての例文に日本語訳がつけてある。全年度対比15.7ポイントの上昇ではあるが、理解度を過信できない数字となった。文末でも挙げてあるが：

[07] 我們一起去喝茶 ba。

正解は「一緒にお茶しませんか。」なのだが、「わたしたちと一緒ににお茶しませんか」を91.1%が選択してしまっている。

③日本語文の中国語訳

全体の正答率は61.2%。2.同様、日本語訳に頼るあまり、個別の単語・語句解釈がおろそかになっているように見える。また語順の把握も非常に曖昧である：

[11] 「彼はある会社に勤めています。」

正解は「他在一個公司工作。」(37.0%)なのだが、「他在工作一個公司。」(39.3%)が上回っている。また：

[14] 「あなたと彼とでは、どちらが年上ですか。」

正解は「Ni 和他、誰大？」(24.0%)だが、「Ni gen 他、多大？」(48.1%)と判断ミスが大きい。

④中国語文の語順整序

正答率は88.1%。配点が高いこともあり、全体の平均点を押し上げたものと予想される。各設問別正答率も71.0～98.9%と高かった。昨年度と違い、日本語訳に沿う形での並べ替えであったことも一因であろう。

⑤中国語文の空欄補充

正答率は 77.1%。助動詞、前置詞、疑問詞、副詞、動詞の正確な意味と前後関係を理解していれば、日本語訳に沿い正解を選べていた。

⑥語句の中国語訳

正答率は 69.1%。親族呼称、二種類ある「2」の扱い、「～する」の間違い易さを再認識した。また：

[34] 自動車

正解は「汽車」(33.8%) だが、「自転車」(56.9%) が上回った。

⑦一音節語の聞き取り (ヒアリング)

2008 年度に外された設問を敢えて採用した。選択肢のつづりはすべて、存在するもののみ挙げたので、大きな迷いはなかったように見える。ただ、正答率が [36] he (第一声) 31.9% → [37] jian (第四声) 56.8% → [38] si (第四声) 36.8% → [39] ting (第一声) 45.9% → [40] xue (第二声) 69.2% とぶれながらも上昇したのは、聞き取りの際選択肢番号 (一～四) の読み上げと選択肢とを混同し、混乱を招いたとあとで受講者から聞いていることから、それぞれの音節の難易度は反映していないようである。

⑧中国語による質問への返答

第一～三課発音篇「しゃべっちゃイナ」からの出題。過去二年にはない試みで、正答率も 39.8% と下回った。各課の「step 2」対話文と聞き取りでは「応答」を重視しているが、生かされていない感がある。適切な返答を選ばせる能力を問う場面をもっと設けるべきかと思う。

3. おわりに

当機構での運用開始から 3 年目を迎え、これまでの成果が中国語教育にも具体的に出始めている。「中級」相当の受講者は格段にピンインを読みこなせているし、3 年次受講者の中国への関心はより高まっている。多くの問題点を把握した上で『第一歩』『第二歩』をより有用に使い、続けて学習していくための基礎体力作りと動機づけを促せるよう、各担当者の工夫を期待している。

資料 1

I. [1]~[5]の日本語の漢字を、中国語の簡体字にあらためるとき、最も適切なのは①~④のうちどれか、選択せよ。 [1×5=5点]

[1] 経 ① 经 ② 經 ③ 经 ④ 經

[2] 包 ① 乞 ② 包 ③ 乞 ④ 仓

[3] 館 ① 馆 ② 館 ③ 馆 ④ 馆

[4] 請 ① 请 ② 请 ③ 请 ④ 清

[5] 還 ① 还 ② 还 ③ 还 ④ 还

II. [6]~[10]の中国語の文の、最も適した日本語訳を選択せよ。 [1×5=5点]

[6] 我家离学校很近。

- ① あなたの家は学校から遠い。
- ② 学校はあなたの家に近い。
- ③ わたしの家は学校から近い。
- ④ わたしの家は学校から遠い。

[7] 我们一起去喝茶吧。

- ① わたしたちと一緒に喝茶しませんか。
- ② 一緒に喝茶しませんか。
- ③ 一緒に喝茶できませんね。
- ④ わたしたちと一緒にご飯を食べませんか。

[8] 他们都是中国老师。

- ① かれらは皆中国人教師です。
- ② かれらは皆中国語の教師です。
- ③ ほかは全部、中国人です。
- ④ ほかは全部、中国語の教師です。

[9] 他的电脑跟你的不一样。

- ① あなたのテレビはあなたのとは違う。
- ② ほかのコンピューターはあなたのとは違う。
- ③ あなたのケータイはあなたのとは違う。
- ④ かれのコンピューターはあなたのとは違う。

[10] 我下星期四去北京。

- ① わたしは来週の水曜日、ペキンに行く。
- ② わたしは来週の木曜日、ペキンへ行く。
- ③ わたしは今週金曜日、ペキンへ行く。
- ④ わたしは先週木曜日、ペキンに行った。

III. [11]~[15]の文をを中国語に訳したとき、最も適切なのはどれかを選択せよ。 [2×5=10点]

[11] 彼はある会社に勤めています。

- ① 他是工作一个公司。
- ② 他在工作一个公司。
- ③ 他在一个公司工作。
- ④ 他有一个公司工作。

[12] わたしは2日間行きます。

- ① 我来二天。
- ② 我去两天。
- ③ 私去两天。
- ④ 私去二天。

[13] この春は快適です。

- ① 这儿的春天很舒服。
- ② 那儿的春天舒服。
- ③ 这是春天很舒服。
- ④ 那个春天很舒服。

[14] あなたと彼とでは、どちらが年上ですか。

- ① 你的他，多大？
- ② 你和他，哪大？
- ③ 你跟他，多大？
- ④ 你和他，谁大？

[15] わたしは中国に留学に行きたくはありません。

- ① 我不可以去中国留学。
- ② 我不想去中国留学。
- ③ 我要去中国不留学。
- ④ 我不要去中国留学。

IV. [16]~[25]を、日本語の意味にそって並べかえたとき、[\*]の位置に来る語句を選択せよ。

[16] ここで泳いでもかまいませんか。 [2×10=20点]

[ ] [ \* ] [ ] [ ] ?

- ① 游泳 ② 可以 ③ 吗 ④ 这儿

[17] わたしは中国の音楽を聴きます。

[ \* ] [ ] [ ] [ ]

- ① 我 ② 听 ③ 中国 ④ 音乐

[18] わたしの辞書はあなたのと違う。

我的词典 [ ] [ ] [ ] [ \* ]。

- ① 不 ② 跟 ③ 你的 ④ 一样

[19] わたしは毎日3、4時間テレビをみる。

我 [ ] [ \* ] [ ] [ ]。

- ① 电视 ② 看 ③ 三 四个小时 ④ 每天

[20] わたしの父は毎日、仕事が忙しい。

資料 2

我爸爸每天 [ \* ] [ ] [ ] [ ] 。  
 ①都 ②很 ③工作 ④忙

[21]かのじょは地下鉄で帰宅する。  
 她 [ \* ] [ ] [ ] [ ] 。  
 ①坐 ②家 ③地铁 ④回

[22]わたしは中国語が少し話せる。  
 我 [ ] [ ] [ ] [ \* ] 。  
 ①说 ②汉语 ③会 ④一点儿

[23]かれはよく母親に手紙を書く。  
 他 [ \* ] [ ] [ ] [ ] 信。  
 ①写 ②给 ③常 ④妈妈

[24]この字はどう読むのですか。  
 [ ] [ ] [ \* ] [ ] ?  
 ①念 ②字 ③怎么 ④这个

[25]かれはウーロン茶が好きだ。  
 [ ] [ \* ] [ ] [ ] 。  
 ①喜欢 ②乌龙茶 ③他 ④喝

V. [26]~[30]について、適切な意味になるよう語句を選択せよ。[1×5=5点]

[26]鈴木さんは中国の歴史を勉強したい。  
 鈴木[ ]学习中国历史。  
 ①也 ②都 ③会 ④要

[27]わたしは昨日手紙を一通書いた。  
 我昨天写[ ]一封信。  
 ①你 ②个 ③也 ④了

[28]大阪から東京まで2時間かかる。  
 从大阪[ ]东京要两个小时。  
 ①到 ②离 ③和 ④跟

[29]中国語は英語ほどは難しくない。  
 汉语没有英语[ ]难。  
 ①怎么 ②比 ③那么 ④什么

[30]あなたの鉛筆は机の上にある。  
 你的铅笔[ ]桌子上。  
 ①在 ②是 ③的 ④有

VI. [31]~[35]の語句を中国語に訳したとき、最も適切なのはどれか、選択せよ。[1×5=5点]

[31]冬休み  
 ①寒假 ②休息  
 ③冬天 ④暑假

[32]わたしの兄  
 ①我老爷 ②他爷爷  
 ③你爸爸 ④我哥哥

[33]2時間半  
 ①两个半小时 ②二个半小时  
 ③二个时间半 ④两个时间半

[34]自動車  
 ①火车 ②汽车  
 ③自行车 ④摩托车

[35]アルバイトをする  
 ①为什么 ②做什么  
 ③工作 ④打工

(※以下 [36] ~ [45] はリスニングで、2回づつ放送されます。)

VII. [36]~[40]について、それぞれ4つの発音を聞き、その中から印刷されているピンイン表記に一致するものを1つ選択せよ。[1×5=5点]

[36] hē ① ② ③ ④

[37] jiàn ① ② ③ ④

[38] sì ① ② ③ ④

[39] fīng ① ② ③ ④

[40] xué ① ② ③ ④

VIII. [41]~[45]の質問に対して、最もふさわしい返答を、以下の選択肢より1つ選択せよ。[1×5=5点]

[41]①是的。 ②我要两个。  
 ③没有。 ④我是买。

[42]①他吃面包。 ②是吗?  
 ③他是我爸爸。 ④他不是。

[43]①我不喜欢。 ②四块五。  
 ③太贵了。 ④谢谢。

[44]①我是学生。 ②你。  
 ③好。 ④他姓王。

[45]①加油。 ②不行。  
 ③再见。 ④不知道。



補足：

・ 正答率順位

[17] 98.9% (語順整序) 「わたしは中国の音楽を聴きます。」

[16] 97.8% (語順整序) 「ここで泳いでもかまいませんか。」

[12] 97.5% (中国語文訳) 「わたしは二日間行きます。」 → 「我去兩天。」

[18] 97.3% (語順整序) 「わたしの辞書はあなたのは違う。」

[06] 97.2% (日本語文訳) 「我家離学校 hen 近。」 → 「わたしの家は学校から近い。」

・ 正答率が著しく低かった設問を以下に挙げておく。

	正答率	誤答率 (第二位)
[07]	② 7.6%	① 91.1%
[11]	③ 37.0%	② 39.3%
[14]	④ 24.0%	③ 48.1%
[30]	① 34.2%	④ 64.4%
[34]	② 33.8%	③ 56.9%
[36]	④ 31.9%	② 35.3%
[43]	② 14.5%	① 39.1%
[45]	④ 20.9%	② 36.9%

## II . 「2009 年度『中国語入門会話』クラスの現状と課題」

李 玲

### 1. はじめに

2009 年度「中国語入門会話」クラスは、8 の受講クラスからなり、履修登録者数は 190 名で、担当教員は 5 名である。

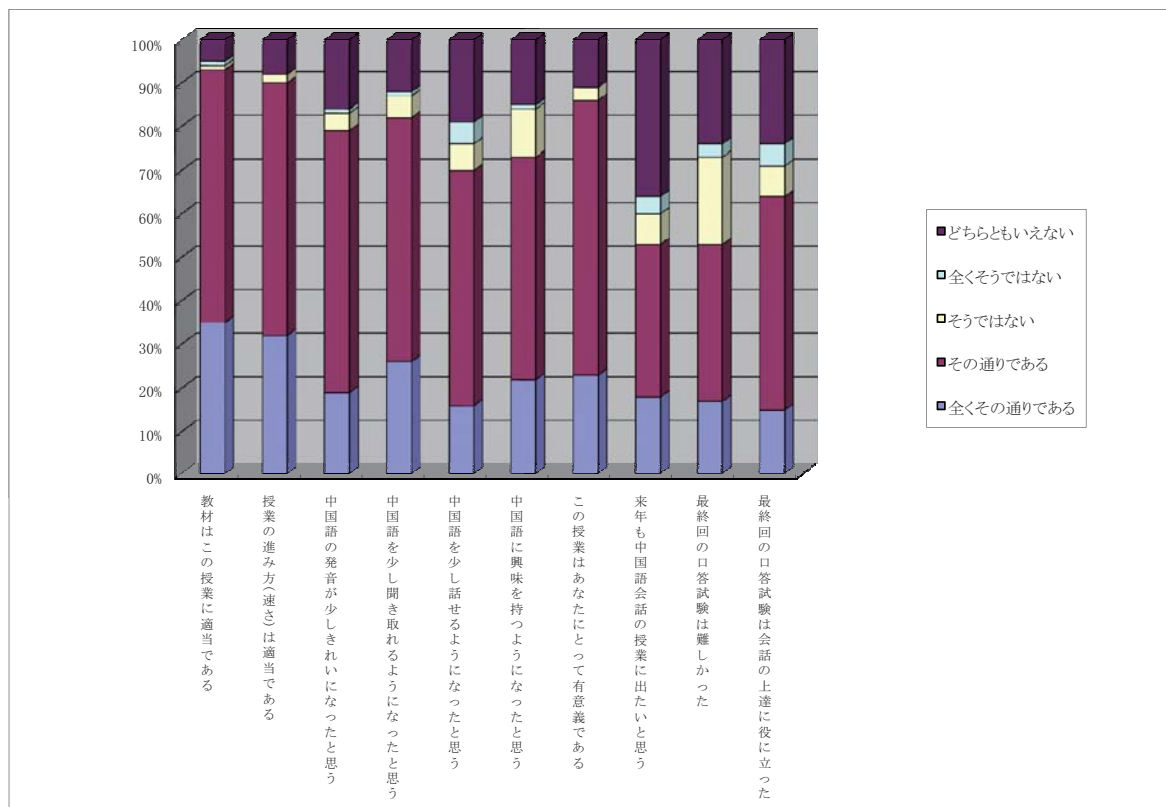
2009 年度「中国語入門会話」クラスの現状を明らかにするために、前年度と同様に担当教員と受講者を対象にそれぞれアンケートを実施した。履修登録者の 190 名の内、今回アンケートに答えた受講者は 113 名であった。担当教員 5 名全員もアンケートに答えた。文末に付記された図表は受講者を対象とするアンケートの結果である。以下は受講者を対象とするアンケートの結果と担当教員を対象とするアンケートの結果を合わせて分析することによって、2009 年度「中国語入門会話」クラスの運営実態を振り返り、そして、本科目の 2010 年度の運営を展望したいと思う。

### 2. 結果と分析

設問 1、2 は使用教材と授業進度の適当度についてのものである (文末図表を参照されたい)。両設問に対する受講者の回答からみれば、どちらについても評価がかなり高いということが分かる。「現在使用している教材は『中国語入門会話』クラスに適當であるか」との設問に対して、「適當である」と答えた担当教員は 3 名であり、「どちらともいえない」

と答えた担当教員 2 名で、内 1 名は「来年度ほかの教材を使用しては」と提案した。また、「授業の進捗は適当であるか」との設問に対して、「適当」と答えた担当教員は 3 名であり、「もう少し速くしてもよい」と答えた教員は 1 名で、回答しなかった教員は 1 名であった。受講者と担当教員の回答を総じて見れば、使用教材も授業の進捗もいずれの面

設問	評価	全くその通りである	その通りである	そうではない	全くそうではない	どちらともいえない
1. 教材はこの授業に適当である		35%	58%	1%	1%	5%
2. 授業の進み方（速さ）は適当である		32%	58%	2%	0%	8%
3. この授業に出ることによって、中国語の発音が少きれいになったと思う。		19%	60%	4%	1%	16%
4. この授業に出ることによって、中国語を少し聞き取れるようになったと思う。		26%	56%	5%	1%	12%
5. この授業に出ることによって、中国語を少し話せるようになったと思う。		16%	54%	6%	5%	19%
6. この授業に出ることによって、中国語に興味を持つようになったと思う。		22%	51%	11%	1%	15%
7. この授業はあなたにとって有意義である。		23%	63%	3%	0%	11%
8. 来年も中国語会話の授業に出たいと思う。		18%	35%	7%	4%	36%
9. 最終回の口答試験は難しかった。		17%	36%	20%	3%	24%
10. 最終回の口答試験は会話の上達に少々役に立った。		15%	49%	7%	5%	24%



2009 年 11 月実施（回答者：113 名）

（アンケート実施の際、「中国語入門会話」クラス担当教員の張建明先生、馬麗娟先生、陳鳳先生と張軼政先生からの御協力を頂き、ここで深く感謝いたします。）



においても現行のもので評価が高いため、2010年度「中国語入門会話」クラスは現在の教材を使用し、また2009年度と同じ進度で授業を進めることが妥当ではないかと思う。

設問3、4、5は「中国語入門会話」を受講することによって受講者のリスニング力と会話力が確実に高まるようになったかどうかという授業の直接効果が問われる設問である。統計から見れば、3つの面においていずれも評価されていることが分かる。設問3の「この授業に出ることによって、中国語の発音が少きれいになったと思う」と設問4の「この授業に出ることによって、中国語を少し聞き取れるようになったと思う」に対して、「全くその通りである」、「その通りである」と回答した受講者の合計数が全回答者に占める比率は80%前後である。この数値は、昨年度に実施した同内容の設問に対する受講者の回答と全く同じ水準である。この数値は、「1年次の『中国語入門会話』の授業を2年次の『中国語基礎会話』と3年次の『中国語会話』の入門段階として、中国語の正しい発音の習得と一定のリスニング力の向上」という2009年度当初設定していた授業目標がほぼ達成されていることを示唆している。

設問5の「この授業に出ることによって、中国語を少し話せるようになったと思う」に対して、「全くその通りである」、「その通りである」と回答した受講者の合計数が全回答者に占める比率は70%であり、設問3と設問4のそれよりやや低い水準にある。しかし、「中国語入門会話」クラスは、受講者が正しい発音をしっかりと習得できるようにするために、前期の約半分の時間を中国語の「ピンイン」の学習に費やし、前期の後半に入ってからようやく簡単な会話を学習する段階に入る。その意味では、70%という数値は決して低いとはいえない。また昨年度、同設問に肯定的に解答した受講者の合計数が全回答者に占める比率は63%であったため、今年度は前年度より7%高くなったことから、2009年度「中国語入門会話」クラスの授業は受講者の会話能力の向上の面で一定の効果があるといえよう。

重要なことは、1年次の「中国語入門会話」と2年次の「中国語基礎会話」、3年次の「中国語会話」を1つの学習過程とし、そのプロセスで受講者が中国語の会話力を漸次向上させることである。したがって、1年次の「中国語入門会話」の授業においては、受講者が正しく発音でき、しかもそのリスニング力を一定のレベルまで引き上げることが最も重要である。それは受講者の会話力向上の土台作りなのである。

設問6と設問7は、「中国入門会話」クラスの授業を受講することによって、中国語そのものに興味を持つようになったかどうか、またこの授業が受講者にとって総合的に有意義であるかどうかという授業の潜在効果が問われる設問である。

設問6の「この授業に出ることによって中国語に興味を持つようになったか」と設問7の「この授業はあなたにとって有意義であるか」に対して、「全くその通りである」と「その通りである」と答えた回答者の合計数が全回答者に占める比率はそれぞれ73%、86%である。両数値は2008年度のそれと同水準である。

設問3、4、5、6、7に対する受講者の回答から、「中国語入門会話」クラスの受講者は、この授業の直接効果と潜在効果のどちらも評価していることを読み取ることができる。

設問8の「来年度も中国語会話の授業に出たいと思うか」は、受講者自身がどれほど1

年次の「中国語入門会話」と2年次の「中国語基礎会話」、3年次の「中国語会話」との連続性を意識しているかについての設問である。継続しようと考えている受講者が半分以上であり、36%の学生は「どちらともいえない」と回答した。この水準は2008年度のものと同じである。

継続しないとする受講者が挙げた理由の多くは「単位が足りているから」や、「授業の時間帯がよくないから」、「1単位だから」などである。ここから、半数以上の受講者は「中国語入門会話」と2年次の「中国語基礎会話」、3年次の「中国語会話」との連続性を意識しているか、若しくは「中国語入門会話」の直接効果・潜在効果を評価することから学習の継続を希望しているが、単位取得のため「中国語入門会話」の授業を選択した受講者も少なくないということが分かる。

「中国語入門会話」の授業に出ることによって少しでも話せるようになってほしいと考え、受講者に刺激を与えるために2009年度から試験の方法を変更した。前期と後期の最終回の授業日に教材で習得した内容を中心に口答試験を実施したのである。設問9と設問10はその実施実態と効果についての受講者と担当教員の回答である。

担当教員5人の内4人は教員がテキストの内容を中国語で質問し、学生に自分の実際状況に従って答えてもらうという会話形式をとった。1人はテキストの内容を学生に暗唱させるという形式で口答試験を実施した。

前者の場合、教員はあらかじめ出題し、出題範囲の中から5問～10問を選んで学生と会話形式で口答試験を実施した。4人の教員の出題数はそれぞれ10問、15問、25問、25問～40問であった。口答試験の効果については、会話形式で実施した4人の教員は、「ほとんどの学生ができた」、「とてもいい刺激になった」、「今後も実施する予定」、「学生の会話力の向上に役に立った」や、「今後も是非継続してほしい」などとコメントした。

テキストの内容を学生に暗唱させるという形式で口答試験を実施した教員の場合、「会話形式ではなかったので、学生にあまり刺激になったとはいえない」とコメントした。一方、受講者側の反応を見ると、設問9の「最終回の口答試験は難しかった」について、「全くその通りである」と「その通りである」と答えた受講者の合計数が回答者に占める比率は53%であるのに対して、設問10の「最終回の口答試験は会話の上達に少々役に立った」について、「全くその通りである」と「その通りである」と答えた受講者の合計数が回答者に占める比率は64%である。つまり、約3分の2の受講者は口答試験の効果を評価していることである。

上記の担当教員と受講者のコメントを総合すると、2010年度も2009年度と同様に前期、後期それぞれの最終授業日に口答試験を実施することが望ましいのではないかと思う。ただし、試験は会話形式で、各クラスの出題範囲を統一するよう提案する。

### 3. まとめに代えて

以上のような「中国語入門会話」クラスの現状を踏まえて、2010年度の課題として下記のことを提案する。

1. 教材は2010年度と同様のものを使用する。

2. 授業の進度も2010年度と同様に設定する（前期は第4課までとする、後期は2週1課のペースで進む）。
3. 口答試験は前期、後期の最終回の授業日に会話形式で実施する。各クラスの出題範囲を統一するよう提案する。
4. 今回の受講者に対するアンケート調査から、長期欠席者（履修登録しているにもかかわらず、一度も授業に出席したことがない学生）が少なくないことが分かった。また、一部の学生は単位取得のために「中国語入門会話」の授業を選択したという事実はすでに述べている。これらの状況をある程度改善するために、新生を対象とする中国語のオリエンテーションの際、神戸学院大学の中国語会話というカリキュラムの中における「中国語入門会話」の位置づけを強調し、そして、履修登録した以上なるべく出席するようと呼びかける必要があると思う。
5. 昨年度の報告にも書いたように、中国語の授業の長期的な課題の一つとしては、「授業を通して、いかにして受講者に中国語や中国に興味を持たせ、『中国語会話に興味を持つ→中国語に興味を持つ→中国に興味を持つ→中国語会話に興味を持つ……』という良好な循環を作ることができるのか」が挙げられる。2010年度の「中国語入門会話」クラスの担当教員に教材内容の学習の他、前期と後期1回ずつ各自で中国を紹介するための自由時間を与える。それは、一方では、受講者に中国に興味を持ってもらうためであり、他方では、各担当教員の個性が自由に発揮できる場を提供するためでもある。

## おわりに

現在初級中国語は47クラス設定されている。各クラスではペアの先生方が毎回進度を報告しながら1冊のテキストをリレー方式で教える。山本先生にはその全クラスの問題点が集約され、質問されるわけで、本来ならば当然専任が果たすべき役割を引き受けていただいている。

入門会話も統一テキストで8クラス設定されている。どこのクラスに入ってもできるだけ不公平が生じないように、成績基準の統一がされている。また先生方が意識を高く持ち、いろいろな試みを行っておられるのが、頼もしい。李玲先生が毎年きちんとアンケートをとり、翌年の授業に生かしているのも、この授業の人気の秘訣であろう。

責任感を持ってまとめ役を遂行する担当者に恵まれてこそ、複数クラスの運営がスムーズに行われることを再確認したことも、この報告の成果といえよう。